4. 重点事業

それぞれのエリアの核となる事業を選定し、そこに派生する事業について段階的に展開し、観光まちづくりを効果的に進めます。また、各エリアの取組を有機的につなぎ、両国地域全体の回遊性を高め、活性化を図ります。

A

両国のメインストリート、粋な江戸文化が薫る国技館通りの環境整備や街並みの修景

国技館通りの賑わい

両国川開きの賑わいを再生する、隅田川テラスの環境づくり

隅田川テラスの賑わい

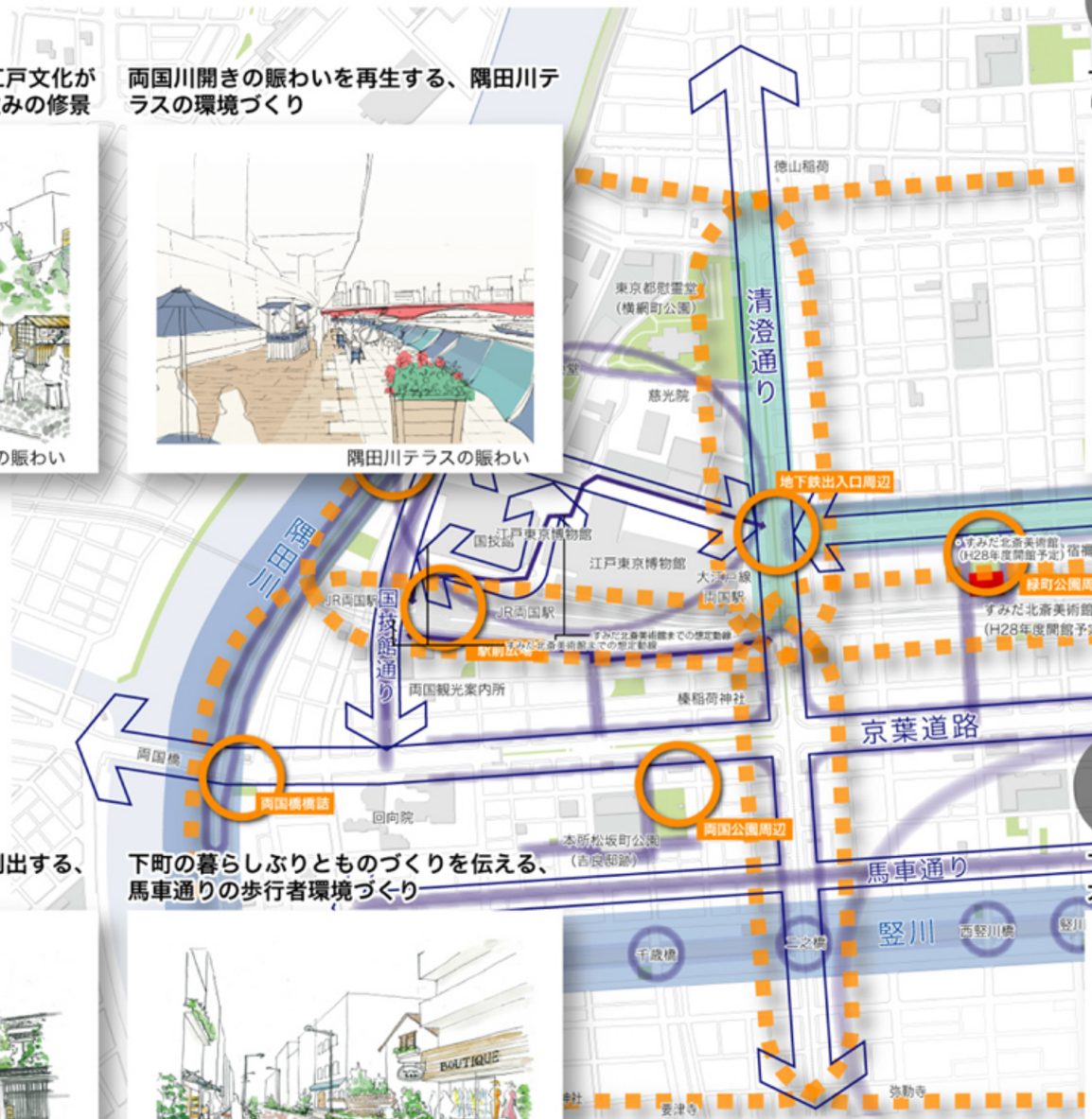
C

すみだ北斎美術館へのアプローチ、北斎通りの環境整備や街並みの修景

北斎通りの賑わい

すみだ北斎美術館と連携した、賑わいがあふれる緑町公園周辺の環境づくり

緑町公園周辺の賑わい



B

歴史文化の奥行きとひろがりを創出する、地域資源周辺の環境づくり

本所松坂町公園周辺の風情

下町の暮らしぶりとものづくりを伝える、馬車通りの歩行者環境づくり

馬車通りの賑わい

D

下町情緒と橋に重なる想いを伝える、竪川・大横川周辺の水辺の環境づくり

大横川沿いの賑わい

歴史文化の奥行きとひろがりを創出する、地域資源周辺の環境づくり

高札周辺の趣き

賑わい軸　まち歩きの拠点　水辺の賑わいゾーン　水辺の記憶ゾーン　今後想定される事業箇所

0　100　250　500m　N

1. 観光まちづくりの進め方

（1）地域展開の進め方

グランドデザイン関連事業の地域展開は、ソフト事業とハード事業の連携を図りながら、地域の方々と、取組を積み上げながら進めていきます。

地域の取組の方向性、進捗等に応じて、具体的事業の展開等について専門家によるアドバイスなどを受け、両国の観光まちづくりを展開していきます。

【実施体制の考え方】

両国観光まちづくりは、両国観光まちづくりのコンセプトと"両国川開き"、"両国博覧会"、"両国桟敷"の3つの施策の展開テーマを両国地区全体で共有しながら推進するとともに、ハード事業とソフト事業、地域と行政が連携を図りながら総合的に検討し、かつA～Dの各エリアの特性や地域資源を活かしながらエリア固有の魅力を高めていくことが求められます。

今後、両国観光まちづくりグランドデザインを実施するための体制をつくり、事業を推進し計画の実現をめざします。

●地域組織と両国観光まちづくり地域連絡会

各エリアの地域組織

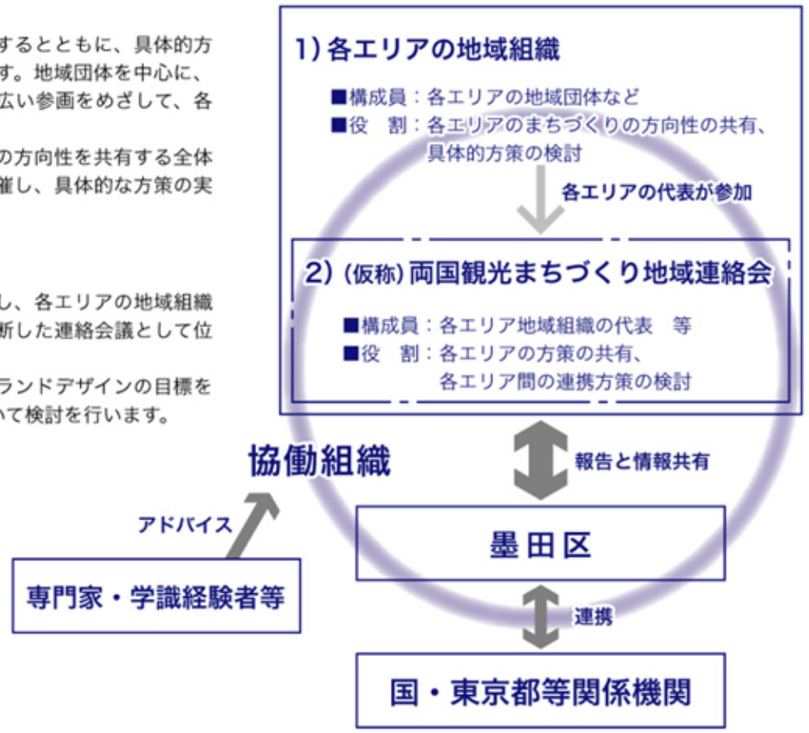
各エリアのまちづくりの方向性を共有するとともに、具体的方策内容の検討や実施の母体となる組織です。地域団体を中心に、将来的には地域の住民や事業者による幅広い参画をめざして、各エリアに設置します。

開催については、エリアのまちづくりの方向性を共有する全体会の他に、各方策や事業別の分科会を開催し、具体的な方策の実施を検討します。

両国観光まちづくり地域連絡会

墨田区都市計画課と観光課を事務局とし、各エリアの地域組織の代表者から構成されます。エリアを横断した連絡会議として位置づけられます。

各エリアの方策を共有すると共に、グランドデザインの目標を確認しながら、エリア間の連携などについて検討を行います。



（2）広域連携

下町文化圏等との観光まちづくりを推進する団体等と連携し、広域観光ネットワークの形成も視野に入れた観光まちづくりを進めていきます。

（3）国・東京都等関係機関との連携

国・都の観光施策と連携して観光まちづくりを進めます。

また、効果的な観光まちづくりを進めるため、新たな観光施策や支援等を求めていきます。

（4）計画の評価と見直し

PDCA（P=plan、D=do、C=check、A=action）のサイクルに基づき、事業の進捗や社会情勢の変化に応じ本計画全体の見直しや新規事業の立案など継続的な観光まちづくりに取組んでいきます。

2. 両国観光まちづくりグランドデザインの到達目標と波及

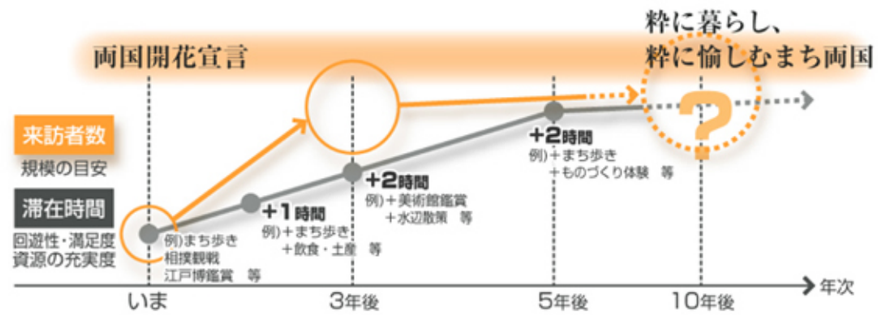
（1）両国観光まちづくりの到達目標

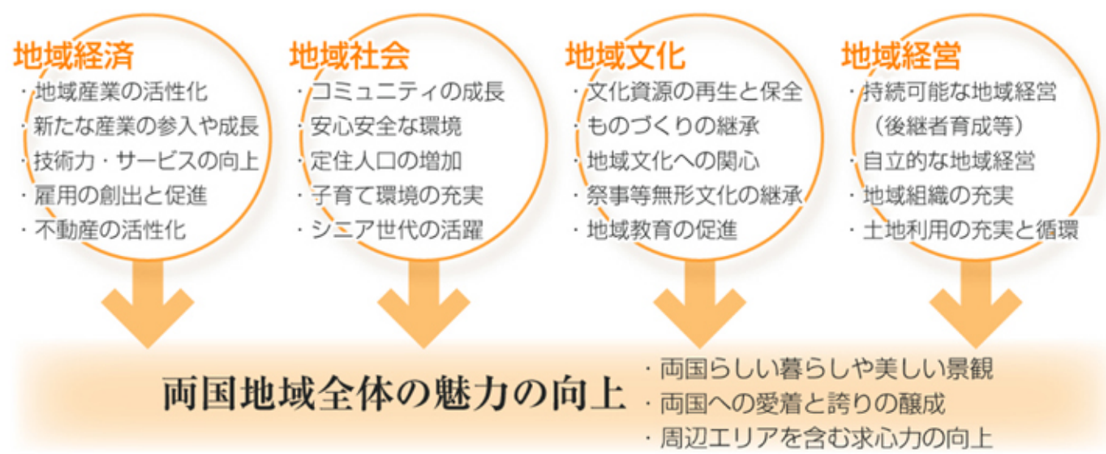
両国観光まちづくりは、目に見えない取組の積み上げを、客観的数値によって示すことで、取組の成果を評価し、両国にふさわしい観光の規模、かたちを共有します。

来訪者数や滞在時間といった客観的数値とともに、来訪者及び地域住民の満足度も観光まちづくりの重要な指標であると言えます。

到達目標及び満足度の指標については、地域展開を図っていく中で、地域の方々と話し合い、将来像を共有しながら検討していきます。

両国にふさわしい観光の将来像



（2）両国観光まちづくりグランドデザインの波及

両国観光まちづくりは、地域のみなさんの持続的なまちとの関わりにより、観光振興に留まらず、両国地域全体の魅力の向上につながります。